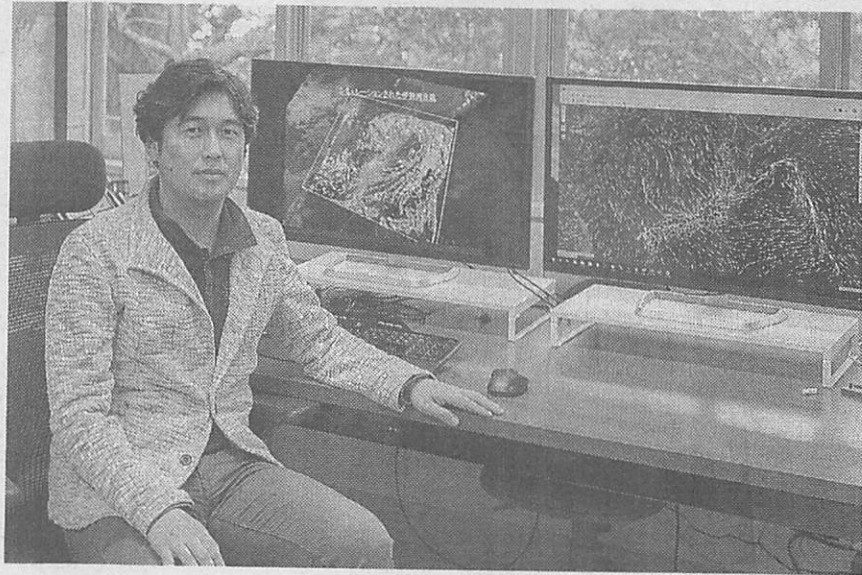


横浜国大教授の筆保弘徳さん



横浜国立大学教授 筆保 弘徳さん

風に導かれのめり込み 台風研究の第一人者に

空気は気圧の高い場所から低い場所に流れる。それを「風」と呼ぶ。
岡山大で大学院生だった1998年10月、広島風を研究していた。台風が紀伊半島の南を通る際、鳥取、岡山県にまたがる那岐山(1255m)から南麓に吹き下ろす強い局地風だ。瞬間風速は50以上に達し、被害をもたらす。折しも台風10号が日本に接近中。

山に気圧計を置き、下山した。ところが10号は予想進路を外れ、鹿児島県枕崎市付近に上陸。その後、那岐山を直撃した。
広島風は吹かず、代わりに珍しい現象をとらえた。台風

の気圧は中心付近で最も低くなる。と考えられがちだが、中心付近が通過した後、気圧が急落していた。世界的な気象学者の故藤田哲也博士(98年11月19日没)が52年に命名した「プレッシャーディップ」

自然を見つめ、 災害に挑む

お家芸の降水短時間予報 精度向上のたすきを継ぐ

降水短時間予報は気象庁が30年以上運用するお家芸の一つだ。土砂災害警戒情報を出す際の判断材料としても使われる。気象レーダーによる解析雨量から雨雲の発達・衰弱を予測し、地形や風速も考慮

2007年に0.40だったスコアは19年に0.52まで向上した。
現在は最新の「三重偏波レ

小学生の頃「どうして天気を予報できるのか」と思っていたという。その答えが仕事になった。
X X
いちかわ・こうへい 19
37 手書きは「こうへい」

る力を



台風 熱帯低気圧のうち北西太平洋(均)が秒速約17m/s、気象庁が発表中心が予報円の内、大きくなるのは台測がさらに不確実

だった。
風が弱まった後、な風が吹き始める。うことも多い。発生被害は大きくなる。転倒飛来物が当たったり、落とす人が出てくる。プレッシャーディップの研究に没頭した。生予測が難しく、急避する要因など謎も多い面からも研究を深め求められている。